

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	阿倍野区
学校名	晴明丘小学校
学校長名	橋本 智恵人

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・晴明丘学校では、第6学年 114名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

○学校平均正答率

国語科 73.8 (市平均65.5 全国平均66.8) 全国平均との比較では、+8.3である。
 算数科 68.5 (市平均57.5 全国平均58.0) 全国平均との比較では、+10.5である。
 理 科 63.0 (市平均54.5 全国平均57.1) 全国平均との比較では、+5.9である。

○評価の観点から見た傾向

国語科 知識・技能は、本校83.7 全国74.5 / 思考判断は、本校69.9 全国63.8
 算数科 知識・技能は、本校73.8 全国65.5 / 思考判断は、本校61.6 全国48.3
 理 科 知識・技能は、本校59.0 全国55.3 / 思考判断は、本校66.6 全国58.7
 と全国平均を上回る。

○児童質問紙

「国語科の勉強が好きですか」肯定的な回答の割合 本校64.6 全国58.3
 「算数科の勉強が好きですか」肯定的な回答の割合 本校68.2 全国57.9
 「理科の勉強が好きですか」 肯定的な回答の割合 本校78.2 全国80.1
 と全国平均を国語科と算数科は上回り、理科は下回る。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語科〕

〔成果〕

・評価の観点における「知識・技能」「思考・判断」の正答率がどちらにおいても全国平均を上回る結果であった。

・問題別正答率をみると6項目中全てにおいて全国平均を+2.3ポイント～+11.6ポイント上回った。

〔課題〕

問題別調査結果を見ると、「自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えること」「文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること」の問題において、全国平均との差が-1.6、+0.6ポイントという結果となり、「話を聞く力」と「要旨を捉える力」において課題がみられた。

〔算数科〕

〔成果〕

・評価の観点における「知識・技能」「思考・判断」の正答率がどちらにおいても全国平均を上回る結果であった。

・問題別正答率をみると5項目中全てにおいて全国平均を+10.5ポイント～+14.2ポイント上回った。

〔課題〕

問題別調査結果を見ると、「数直線上に示された数を分数で書くこと」において、全国平均との差が+1.6ポイントという結果となり、「分数を単位分数の幾つ分として捉えることについての理解」に課題が見られた。

〔理科〕

〔成果〕

・評価の観点における「知識・技能」「思考・判断」の正答率がどちらにおいても全国平均を上回る結果であった。

・問題別正答率をみると4項目中全てにおいて全国平均を+0.9ポイント～+7.2ポイント上回った。

〔課題〕

問題別調査結果を見ると、「電磁力の強さとコイルの巻き数の関係」「水の温度と状態の変化の関係」において全国平均との差が-5.2、-2.1ポイントという結果になり、各学習領域の知識や概念の理解に課題が見られた。

質問調査より

○「学校に行くのは楽しいですか」について、昨年度より+1.5ポイント上昇し、86.4となった。また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「自分にはよいところがあると思いますか」の項目において97.3、89.1となり、それぞれ全国平均を上回った。これは、日々の学習に加え、ペア集会や異学年交流授業などで異学年の児童と関わる機会を設けたり、学級や学年で取り組むみんな遊びやいいところ見つけ、奉仕活動などを通して、児童が互いに関われる機会を設けたりしてきた結果であると考える。

○「学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気づいたりすることができますか」について、81.8となり、全国平均の84.9を下回った。授業では、ペアやグループ、学級全体で話し合い活動を取り入れたり、学習者用端末を活用して児童の意見を比較検討できるようにしたりして、子どもたちの学びを深める学習を工夫しているが、結果としては十分ではなかったと考える。今後も指導方法を工夫して継続していく。

今後の取組(アクションプラン)

- 話合い活動が活発になる発問を工夫する。また、児童の話合い活動に取り組みやすい場の見直しをする。
- 主体的、対話的で深い学びや個に応じた学習を今後も継続して取り組む。
- 学習の指導方法について公開授業や伝達研修などを行い、教員の指導力のさらなる向上を目指す。
- 各教科の学習活動に、自分の考えをまとめて書く活動を工夫して取り入れる。
- navimaなどの学習アプリを使い、基礎的、基本的な学習内容を繰り返し学習することで学力の定着を図る。
- ICT機器を使用し、効果的な授業になるように工夫する。
- 児童が学級内や異学年間での交流できる機会を積極的に取り入れて、互いに認め合える場を

【 全体の概要 】

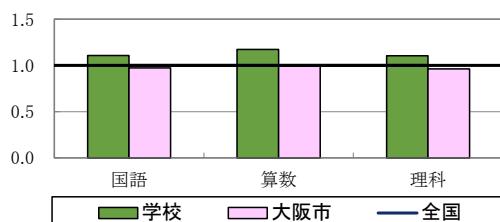
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	74	68	63
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1

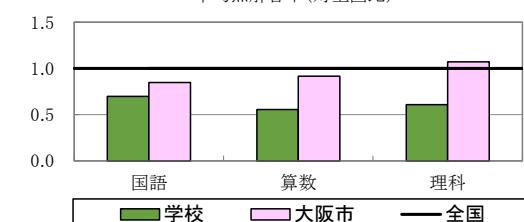
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	2.3	2.0	1.7
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



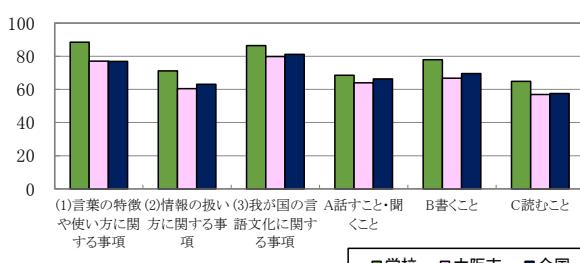
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	2	88.5	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に関する事項	1	71.2	60.4	63.1
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	86.5	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	68.6	64.0	66.3
B 書くこと	3	77.9	66.7	69.5
C 読むこと	4	64.9	56.9	57.5

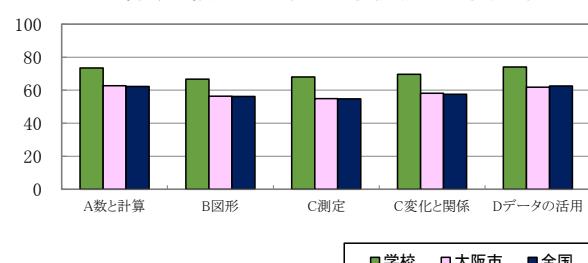
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	73.5	62.7	62.3
B 図形	4	66.7	56.4	56.2
C 測定	2	68.0	54.9	54.8
C 変化と関係	3	69.6	58.2	57.5
D データの活用	5	74.0	61.9	62.6

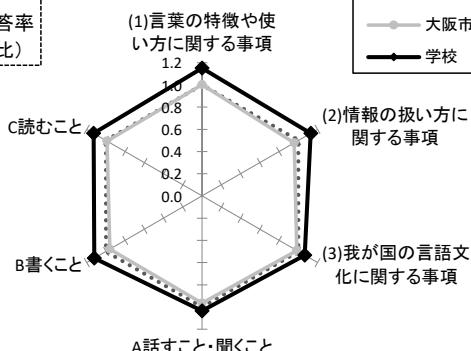
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



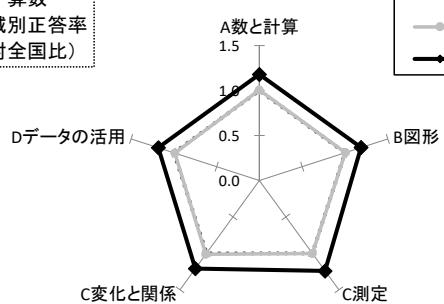
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

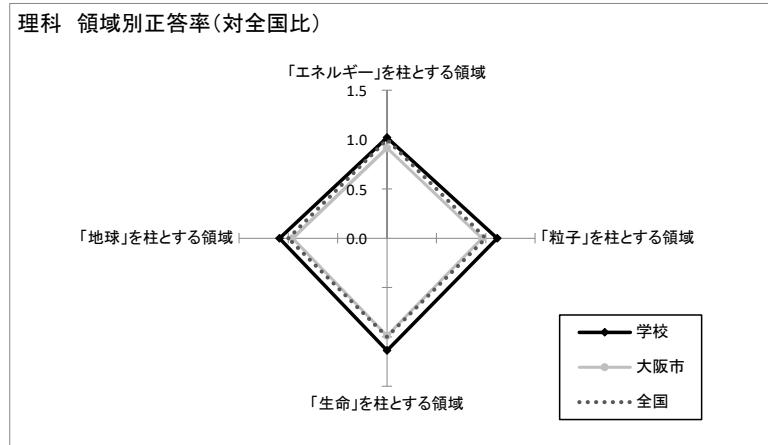
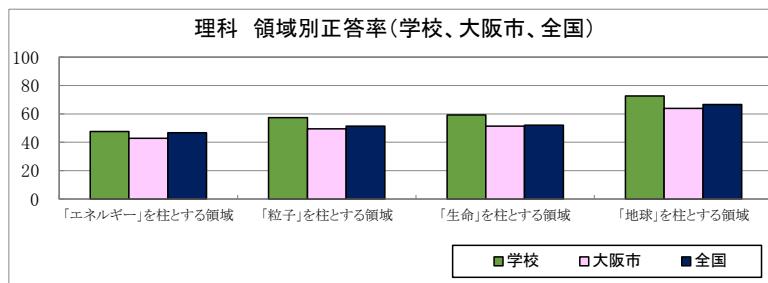


算数
領域別正答率
(対全国比)



【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	47.6	42.7
	「粒子」を 柱とする領域	6	57.4	49.5
B 区分	「生命」を 柱とする領域	4	59.2	51.4
	「地球」を 柱とする領域	6	72.7	63.8



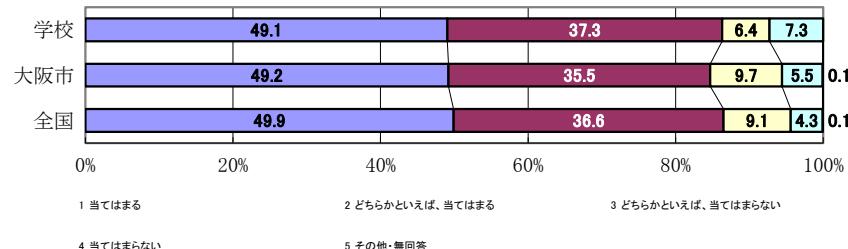
児童質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

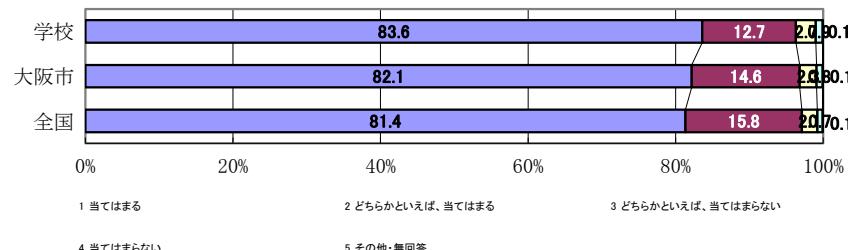
12

学校に行くのは楽しいと思いますか



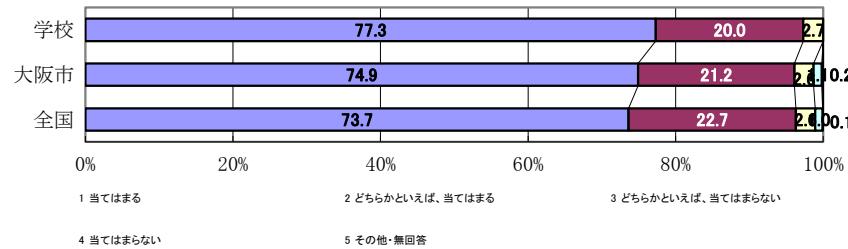
9

いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



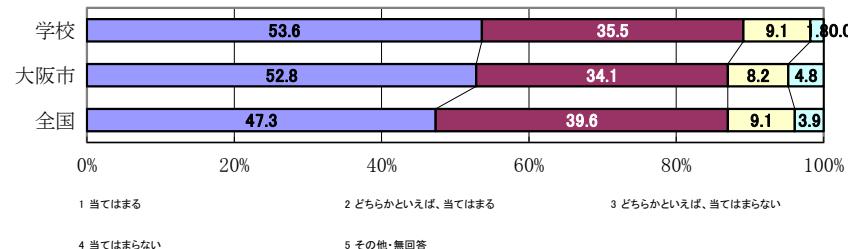
11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



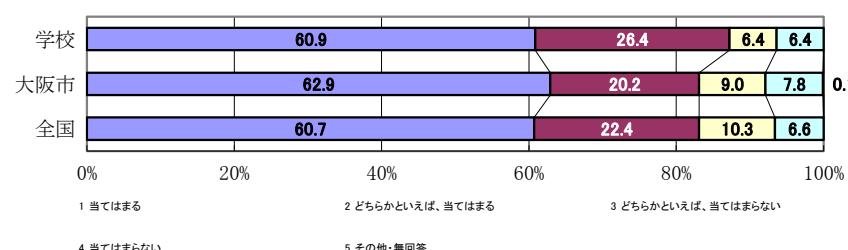
5

自分には、よいところがあると思いますか



7

将来の夢や目標を持っていますか



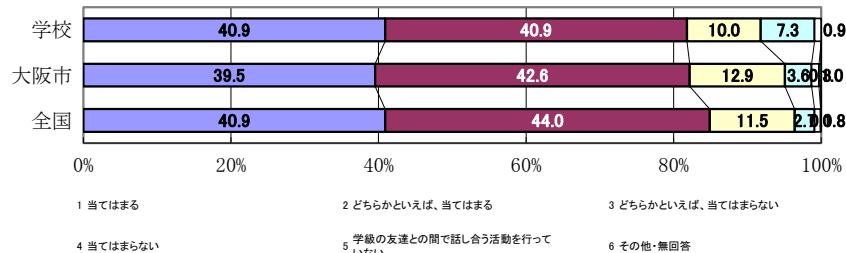
児童質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

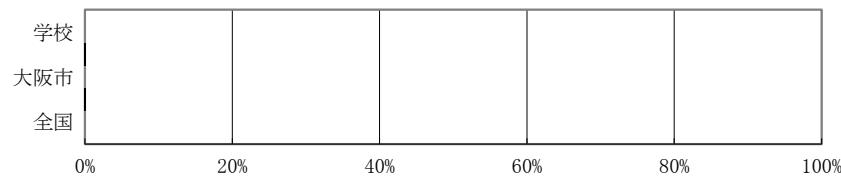
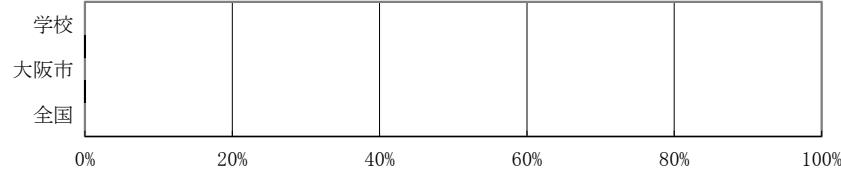
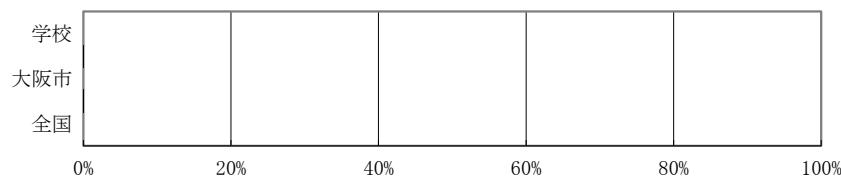
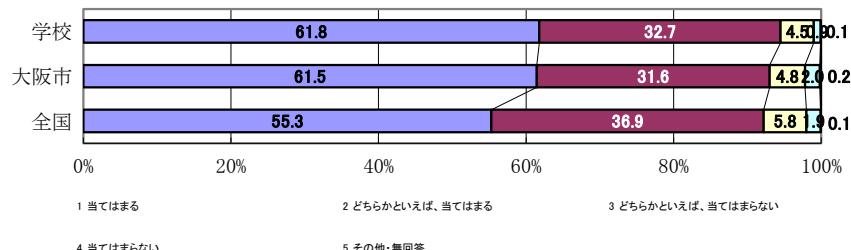
35

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができますか



6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



学校質問より

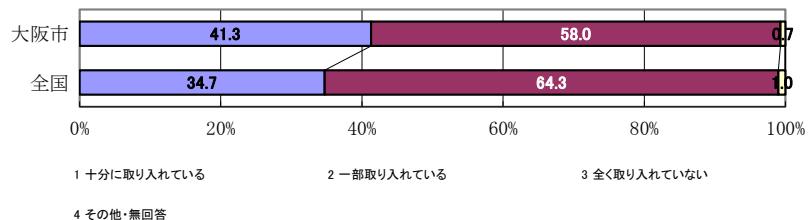
■ 1 ■ 2 □ 3 □ 4 □ 5 ■ 6 ■ 7 ■ 8 ■ 9 ■ 10

質問番号
質問事項

13

ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか

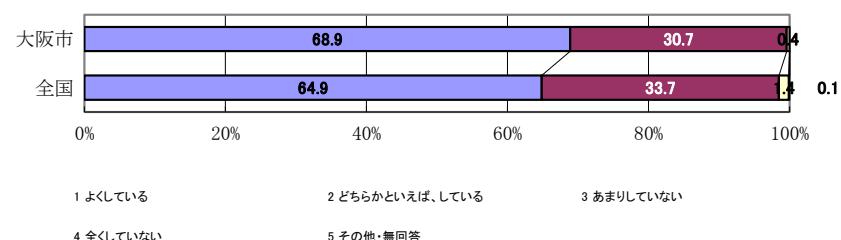
学校 「十分に取り入れている」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

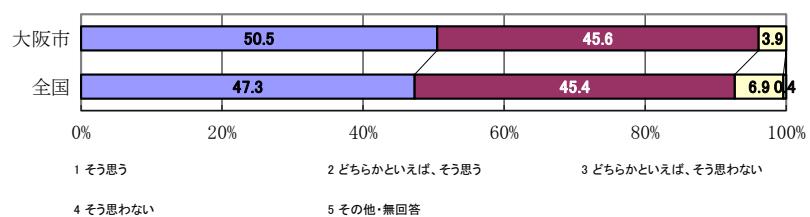
学校 「よくしている」を選択



24

ストレスチェックの結果の活用や研修など、教職員自身の心身の健康状態につき振り返り対処する機会が提供されていると思いますか

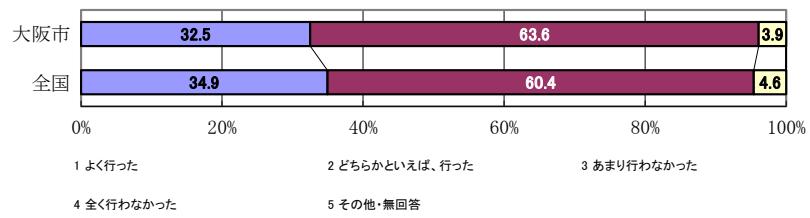
学校 「そう思う」を選択



31

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか

学校 「よく行った」を選択



58

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「ほぼ毎日(1日に1回くらいの授業)」を選択

